

## 顧客向けメールサンプル

こんにちは 東京太郎様

夏真っ盛りです!! 夏バテせずにお過ごしでしょうか?

夏バテ予防のための食材としては、うなぎが有名ですが、古くは奈良時代から、薬や食品として利用されてきたそうです。

うなぎにはビタミンAがとくに豊富に含まれ、他にもタンパク質、脂質、ビタミンB群、ビタミンD、E、カルシウム、鉄など豊富な栄養素が含まれており、栄養満点の食品です。

この時期、もともと体力のない幼児や高齢者にとっては脱水状態に陥ったりする危険性もありますので、夏バテを軽く考えないで、体が必要とする栄養を十分にとるとともに休養とゆっくり睡眠をとり、夏バテ対策をしっかり行い、元気に夏を過ごしましょう!

\*~\*.....\*~\*  
▼△ 見直される高額療養費制度 △▼  
\*~\*.....\*~\*

医療費が高額になったとき、大きな助けになるのが「高額療養費制度」です。この制度は1か月に支払った医療費の自己負担が一定限度額を超えた場合、超えた部分が払い戻されるというものです。

70歳未満の人では一般所得者はおおよそ80,100円プラス $\alpha$ 、上位所得者(標準報酬月額53万円以上)は同じく15万円プラス $\alpha$ を超える一定部分が払い戻されることとなります。

(詳しい計算式は厚労省、市町村等のホームページで確認下さい)

平成19年4月以前はいったん医療機関の窓口で支払った後、自己負担超過部分が払い戻されるのが原則でした。

現在は事前にそれぞれの所得に応じた自己負担限度額を示す「限度額適用認定証」の交付を受けていれば、限度額以上の支払いをする必要はありません。

払い戻しの場合、おおよそ2、3か月かかりますので、その間の立て替えに苦慮する人にとってこの改正は大きな朗報でした。

(限度額適用認定証の交付を受けていない場合は、現在でもいったん支払って後日、払い戻しを受けなければなりません)

しかし、この高額療養費制度は入院、通院がそれぞれ別になっています。

入院の場合はその月にかかった医療費がまとめて請求されますので、限度額を超えたかどうかは簡単に分かりますが、通院の場合、その都度の精算、支払いですので手続き上、全て後日に払い戻される形となっています。

かぜなどの簡単な病気で受診する場合、この限度額を超えることは考えられません。がん患者さんの場合はそうではありません。

入院して手術など一定の治療後、通院での治療になりますが、抗ガン剤、検査で月々の医療費がこの限度額を超えることが珍しくはありません。通院に至る段階までに、もうかなりの経済的負担を払っている患者さんにとって、2、3か月といえども立て替えは厳しいものがあります。

このような状況を踏まえ現在、高額療養費制度の見直しが検討されており、通院でも限度額以上の支払いをなくしていく方向にあるようです。ただ、複数の医療機関を受診している時はどのようにするかなど、事務的には解決しなければならない問題も多くあります。

いずれにしろ患者さんにとっては朗報です。また限度額そのものの引き下げも検討されており、安心して医療を受ける環境に向けて前進しています。

\*^\*.....\*^\*  
▼△ 増える「直葬」、葬儀の世界にも大きな変化が △▼  
\*^\*.....\*^\*

「直葬」という言葉をご存じですか？  
亡くなった時、お葬式を行わず火葬場に遺体を運び、僅かな身内の立ち会いの下、そのまま火葬にすることを言います。

一般的にお葬式は、通夜・葬儀式・告別式・火葬という流れで行われるのですが、最近はお葬式を簡単に済ませたいという人が増え、その最も簡便なものがこの直葬になります。

ここ数年来、家族、親戚、ごく近い友人だけが集まって執り行う家族葬が増えてきています。従来、家族葬というのは社会的に地位のある人や著名人が公式に行う本葬に先んじて身内だけで行うものでしたが、今では一般の人もその本葬の部分を省略して、行うようになっています。

ただ、家族葬の場合は規模は小さいながら通夜から告別式は一応行われ

ますが、この直葬ではそのような一連の儀式は行われません。  
遺体安置場所から火葬場へ直行し、そのまま荼毘(だび)に付されるので  
す。

場合によっては火葬場で僧侶が簡単に読経することもあります。従来  
の葬儀の概念からはかけ離れた内容となっています。

当然、その費用も割安で20、30万円程度ですむようです。  
一般の葬儀の場合、200万円程度、家族葬でも70、80万円はかかるこ  
とが多いようですが、それらに比べて大変安い値段と言えるでしょう。

都会に住む高齢者の場合、亡くなっても、身寄りも少なく、葬儀に参列する  
人も僅かしかいないこともあります。

通常の葬儀をしても参列する人がほとんどおらず、あまり葬儀の意味があ  
りません。

そんな人にとってはこの直葬で十分だとも言えるでしょう。

二極化の進む昨今、葬儀を行うにも費用に乏しい人も多くいます。  
少しでも安く行いたいという経済的な理由から直葬を選ぶ人、また、形だけ  
派手になってしまった現在の葬儀を嫌う人も少なからず存在します。  
理由は様々ですが、最も保守的な葬儀の世界にも大きな変化が現れてい  
ます。

アドレスのご変更、メールマガジンの解除は下記アドレスで行えます。

[http://www.isr.jp/mailmag/\\*\\*\\*\\*\\*](http://www.isr.jp/mailmag/*****)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

お客様の安心と幸せのために。

株式会社新日トータルライフサポート  
大阪市西区靱本町 1-5-15-5F 〒550-0004  
TEL:06-6225-0550,FAX:06-6225-0551  
URL <http://www.shinnihon-ins.co.jp/>

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

※実際のメールマガジンはPDFではなく、eメール(テキスト形式)でお送りします。

また、携帯向けには読みやすさを考慮し、1テーマのみの配信としています。